



湾岸・アラビア半島地域ニュース

イラン：欧州向けガスパイプライン計画 (1月15-22日付イラン・デイリー他)

1. ガスプロム（露）との協力に関するノーザリ石油相の発言

イラン側は、ガスプロム関係者と真剣な協議を行い、ガスプロムがエネルギー協力に関する提案を2008年3月半ばまでに提出することで合意した。ガスプロムは、石油・ガスの深鉱及び、開発、パイプライン建設に関心がある。

2. EU向けガス供給に関するモッタキ外相の発言

EUは、既にガス供給元を多様化する必要があることを指摘している。イランがエネルギー分野において欧州と協力できるのはナブッコ（以下参考）である。露は世界最大のガス供給国であり、イランはその次に位置している。欧州が何を選択するかは、欧州自身が決断することである。

3. モッタキ外相のソフィアにおけるカルフィン・ブルガリア外相との会談後の発言

イランは欧州向けの2本のガスパイプラインの建設計画について検討している。一本は、スイス向け（など）のガス輸送を目的とするナブッコ・ガスパイプライン計画であり、もう一本は、ギリシャを通過するパイプラインである。EUがガス供給元を多様化するにあたり、ブルガリアは欧州向けガス輸送のハブとして中心的な役割を果たすことができるだろう。イランとブルガリアは、エネルギー分野の協力を発展させるための協議を行う共同委員会を発足させることに合意した。

<参考>

Nabucco：コーカサス地域諸国の天然ガスを欧州へ向けて供給するために、オーストリア最大の石油・ガス企業MOVが主導し、2008年着工を予定している天然ガスパイプライン。ブルガリアやハンガリー等5ヶ国の企業が共同で管理・運営され、2011年に操業が予定されている。全長3,300キロに達し、露に頼らない天然ガスの供給元として、イランの他に、アゼルバイジャンやカザフスタン、トルクメニスタンなども候補に挙がっている。